

# 地域再生計画

## 1. 地域再生計画の名称

阿武萩地域の自然と文化にふれあう交流のまちづくり計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

山口県、萩市及び山口県阿武郡阿武町

## 3. 地域再生計画の区域

萩市及び山口県阿武郡阿武町の全域

## 4. 地域再生計画の目標

萩市と阿武町は、山口県北部に位置し、海岸部は日本海の豊かな青い海に面し、内陸部は中国山地を構成する山々や肥沃な平地など緑の大地で構成されている。特に萩市は近代日本の礎を築いた明治維新の地として山口県を代表する観光地でもある。

計画区域内では、「「地産・地消」豊かな食と緑で彩るまちづくり計画」（平成 18 年度～平成 22 年度）を策定し、地域再生法による支援を受けて、地産・地消で「食」と「緑」を活かしたまちづくりに取り組み、新鮮な農林水産物の販売を促進するため、道の駅や直売所、地産・地消の推進拠点（やまぐち食彩店）（販売協力店）を数多く開設し、また、学校給食においても地元産を積極的に利用する体制づくりが進み、さらに城下町を竹灯路で彩るといった林産物の消費拡大の取組みの進展など、市の中心部と各地域間を結ぶ連携軸の強化により、観光と農林水産業を連携させたまちづくりを進めてきており、地産・地消の加工品の売り上げが倍増する他、グリーン・ツーリズム等の協議会が各市町で立ち上がる等、農林水産物の消費拡大や農山村地域の交流人口の拡大に成果が現れている。

その一方、世界的な経済状況悪化の影響を受けて、地域外からの観光客数の減少に歯止めがかからない状況である。

また、南北の周辺地域は、広大な整備済の農地を有する県内最大級の食料生産基地であり、伐期を迎えた豊富な森林資源を有している。しかしながら、未だに地域内の農林道が未整備で、農産物の生産・集出荷や林業の施業に支障を来している他、農林業従事者の高齢化が進み、過疎化の進行や農地の耕作放棄地化、集落機能崩壊が懸念される状況となっている。

こうした状況を踏まえ、これまでの地産・地消を中心とした取組みをさらに発展させて、①「やまぐち食彩店」の拡大を核として、中心市街地の観光や商工業者と連携した加工品の開発等の 6 次産業化及び生産物のブランド化の推進。②青少年教育施設「萩青

年の家」を拠点に、「萩市ふるさとツーリズム推進協議会」、「阿武地域グリーン・ツーリズム推進協議会」および中心市街地の「学ぶ観光」との連携を進め、子ども農山漁村交流プロジェクトや体験型修学旅行などでの農林水産体験や民芸工作体験、農林漁家ホームステイ等の体験型教育旅行の受け入れ推進による交流人口のさらなる拡大。③これらの取り組みを広域的かつ有機的に連携するための基盤であり、農林業の生産性向上と地域内の生活環境改善に資する広域農道、林道の整備を一体的に進める。

このように、地産・地消や都市農山漁村交流の推進に向けた取り組みが積極的に展開される中で、アクセス改善のための広域農道、林道を一体的に整備することにより、豊かな農林水産物の生産・加工の場である農山漁村部と各地域に点在する道の駅、直売所、やまぐち食彩店、あるいは中心市街地の歴史的観光施設と、農山漁村部の体験拠点施設を結ぶ円滑な移動ルートの確保を行い、それらの施設が広域で有機的な連携を図ることによって農林水産業と観光を一体的に推進することが可能となり、歴史と自然にふれあう交流のまちづくりで地域の活性化を図っていく。

(目標 1) 拠点施設間のアクセスの改善

(弥富集落から道の駅「うり坊の郷 katamata」→4分短縮)

(木間集落から道の駅「萩・さんさん三見」→3分短縮)

(目標 2) 交流人口の増

(体験型教育旅行の交流人口 H22:0人 → H27:400人)

(目標 3) 地産・地消の店舗の増

(やまぐち食彩店 H21:27店舗 → H27:32店舗)

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1. 全体の概要

萩市・阿武町で実施する広域農道及び林道を総合的に整備推進することにより、事業目的である農林業の生産性向上や地域内の生活環境改善とあわせ、体験型教育旅行での拠点施設となる萩青年の家を中心に林道「三見木間線」の整備により三見地域、旭地域の活動拠点を周遊する西南ルートと、広域農道「阿武北」の整備により阿武町沿岸地域、田万川地域、須佐地域、阿武町山間地域、むつみ地域、福栄地域を周遊する北東ルートを構築する。

あわせて道の駅や農産物直売所、加工施設を結ぶ一連のルートにより、新鮮で安心・安全な農林産物や加工品の供給が可能となり、地産・地消の推進と阿武萩地域の農林業の振興を図る。

### 5-2. 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ①道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続きを了している。なお、整備箇

所については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・ 広域農道「阿武北2期地区」 平成19年9月18日 土地改良事業計画確定
- ・ 林道「三見・木間線」 平成20年4月 萩地域森林計画記載

道整備交付金を活用する事業

**【施設の種類の（事業区域）、事業主体】**

- ・ 広域農道 (萩市・阿武町) 山口県
- ・ 林道 (萩市) 山口県

**【事業期間】**

- ・ 広域農道 平成23～27年度
- ・ 林道 平成24～25年度

**【整備量及び事業費】**

- ・ 広域農道 3.2km 林道 2.2km
- ・ 総事業費 2,150,000千円 (うち交付金 1,075,000千円)
- 広域農道 2,000,000千円 (うち交付金 1,000,000千円)
- 林道 150,000千円 (うち交付金 75,000千円)

### 5-3. その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか『阿武萩地域の自然と文化にふれあう交流のまちづくり計画』を達成するため以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

**(1) 中山間地域総合整備事業 木間地区（萩市）**

農業用排水路や農道、暗渠排水などの条件整備により効率的な営農形態や収益性の高い農業を展開する。

あわせて営農飲雑用水による水道の整備での生活環境の改善や、加工場の整備による6次産業化の推進を図る。

**(2) 中山間地域総合整備事業 三見河内地区（県）**

区画整理や農道、暗渠排水などの条件整備により効率的な営農形態や収益性の高い農業を展開する。

**(3) やまぐちの農水産物需要拡大対策事業（県、市、JA等）**

各地域で生産、流通・加工、消費の循環を促進し地域産農水産物の需要と生産を適切に結びつけるやまぐち食彩店の拡大など、地産・地消の取り組みを展開する。

**(4) やまぐちの食を支える協働活動促進事業（県）**

生産者・流通商工関係者・消費者による協働活動を展開することで、農林水産業・農山漁村への理解を深める。

**(5) 萩まちじゅう博物館（萩市、NPO）**

文化財をはじめとするまちじゅうにある豊かな文化や歴史、自然のおたからを対象にして、地域遺産の発見・保存や展示・情報発信、整備やおもてなしなどを行政だけでなくNPOや地域団体など市民と協働で推進する。

(6) やまぐちスロー・ツーリズム推進事業（県）

都市と農山漁村地域の交流を促進するため、体験型教育旅行を活用した受入体制づくりや交流活動を担う人材の育成を総合的に推進する。

**6. 計画期間**

平成23年度～27年度

**7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行って状況を把握・公表するとともに、市町、県、JA等の関係機関で構成する「萩地域農林業・農山村振興協議会」の中で達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行うこととする。

**8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項**

該当なし